

会場 大阪化学繊維会館 1F 1999年8月23日(月)~24日(火)

出展者 池端禎三 (TEI TEXTILE DESIGN STUDIO)、石原薫 (石原デザインハウス)、内丸もと子 (テキスタイルデザイナー)、梅田幸男 (大阪芸術大学)、大手裕子 (成安造形短期大学)、尾崎要 (KANAME DESIGN STUDIO)、加藤みつこ (STUDIO WORK)、北川陽子 (Fabric 紺工房)、佐々木尚 (SYOW デザイン)、新本浩二 (STUDIO IT'S)、滝恵一 (TAKI DESIGN STUDIO)、矢野晴信 (ATELIER HARUNOBU)、山岸征史 (テキスタイルアートスタジオ)、木谷雄二郎 (架空装飾) / 14名

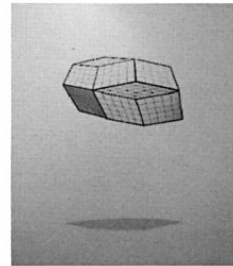
実行委員長 木谷雄二郎

協力 近沢晴雄、藤田吉之

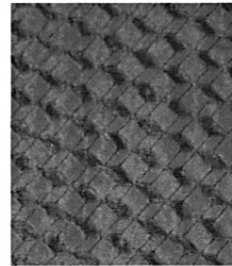
TDA主催による第1回テキスタイルデザイン展「テキスタイルデザイナー14人の視点・試展」が8月23日・24日の2日間、大阪化学繊維会館で開催された。新しい試みとしてTDA参加のテキスタイルCG作家、染色作家、織物作家、図案家、プランナーなどのあらゆるテキスタイルデザイナーが集い、各々のテキスタイルビジネスへの繋がり求めた。又、パネルディスカッションやパーティーも盛込まれた。



池端禎三



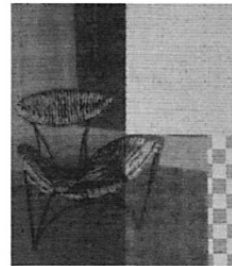
石原薫



内丸もと子



梅田幸男



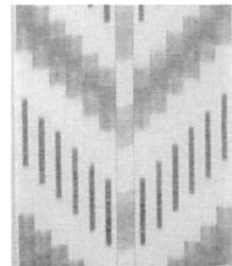
大手裕子



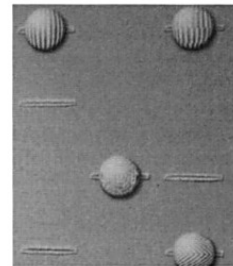
尾崎要



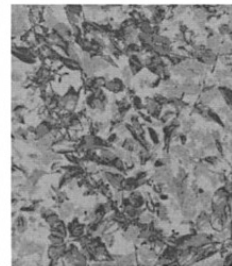
加藤みつこ



北川陽子



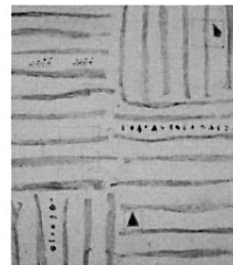
木谷雄二郎



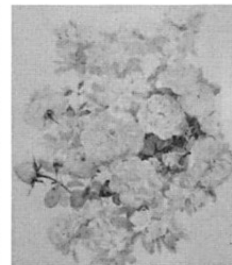
佐々木尚



新本浩二



滝恵一



矢野晴信



山岸征史

#### ●出展者によるパネルディスカッション

コーディネーター木谷雄二郎、パネラーに内丸もと子、梅田幸男、大手裕子、尾崎要、北川陽子、山岸征史に加え住江織物(株)の村井茂樹氏を迎え行われた。高度成長期と現在におけるデザインのあり方や新進・中堅デザイナーはこれからどう生き残っていくか、関西と関東ではデザインプロセスがどう違うか等の議題について語られた。消費者の立場から女子大生に意見を求めると「お金が無いからといって受ければ良いと言う訳ではなく、これと思わなければ買わない」と言うのが印象的でした。



内丸もと子：イギリス留学経験からイギリスではテキスタイルは芸術であり大学にはみな個性がある。企業は大学生を使って新しいアイデアを物色し大学を援助する。  
梅田幸男：繊維業界は辰年（昭和27、39、51、63年）を起点に良くなる傾向があったが近年では当てはまらず日本経済をも含む構造が変化している。  
大手裕子：作家活動をしていて黒を使いたかったが老人施設では駄目といわれた。固定観念にとらわれ過ぎではないか、空間にとけ込めば良いのではないか。  
尾崎要：図案のパルプ時代（30年代～）図案家は10～40人位の弟子をとった。長者番付には図案家が芸能人という時代があり浮かれていたが、現状の厳しさが本当ではないか。  
北川陽子：産地の中で作家はいかに自分の特長付けをし商業ベースにのせるかが難しい。  
山岸征史：テキスタイルは使う人が作っている。マスコミの仕掛けに乗るか乗らないか使う人の趣味趣向により方向が決まる。  
村井茂樹：昔と違い繊維業界は厳しくスピードが必要でありコンピューターの導入は不可欠であるが万能ではなくフリーランスの人の協力が必要である。  
(レポート 佐々木 尚)